



第2250回 2012年6月6日(水) 12:30~13:30 高幡不動尊

例会プログラム

司会

西山 尚之
例会進行委員



開会点鐘

藤林 良昭 会長

ロータリーソング

『奉仕の理想』
ソングリーダー
飯作 金彦 君



四つテスト

西山 尚之 例会進行委員

会長挨拶 藤林 良昭 会長

幹事報告 和田 達也 幹事

委員会等報告

会員増強・親睦委員会	山下委員長
出席委員会	横倉委員長
社会奉仕委員会	森岡委員長
プログラム委員会	飯作委員長
ロータリー財団委員会	野村委員長

卓話

「満州からの引き揚げ」 森岡会員

食事

開運そば
(井村会員)



会長挨拶 藤林 良昭 会長

本年度もあと僅かです。最後を楽しくやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

当クラブの重鎮である後藤会員の退会希望を、本日の理事会で認めることとしました。後藤会員には、最終例会でお話をいただきたいと思っております。

幹事報告 和田 達也 幹事

- 東京多摩ロータリークラブより例会変更のお知らせです。
- 本日今年度最終理事会を開催しました。世間ではスーパークールビズが流行り始めておりますが、当クラブでは「例会場でジャケット着用の義務はないが、ジャケットを持参すること」といたします。
- 6月13日(水)夜間 第4回クラブ協議会を開催します。委員会の委員長さんは活動報告書の提出をお願いいたします。また、申し送りをご記入いただくとともに、次年度への提案やアドバイスがあればお伝えください。

月例祝賀

誕生日 小倉裕美君(6/15)

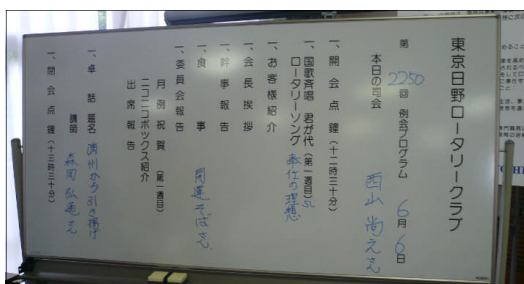
結婚記念日 山口徹雄君(6/18)

夫人夫君誕生日

山下雅弘君(智子さん 6/3)

山村侑僕君(和恵さん 6/13) 清水博雅君(千恵子さん 6/28)

阪口 茂君(富美子さん 6/23) 熊井治孝君(久美子さん 6/30)



委員会報告など

出席委員会 横倉 利夫 委員

MU 本日の事前メイクアップ 井村廣巳君 松田忠泰君

MU 前回・前々回のメイクアップ なし

	会員総数 (うち出席免除)	出席総数 (うち免除者数)	MU (うち免除者数)	欠席	出席率
本日 2012.06.06	31 (5)	21 (2)	2 (0)	5	82.14%
前回訂正 2012.05.23	31 (5)	24 (5)	1+0 (0+0)	6	80.65%
前々回訂正 2012.05.16	31 (5)	21 (2)	2+0+0 (0+0+0)	5	82.14%

プログラム委員会 飯作 金彦 委員長

最近、委員会報告が少ないように思います。活発に行っていたかと思えます。前回の卓話「地震と津波について」の不足資料を揃えました。希望の方はもらってください。卓話は、本日の森岡会員、来週の清水会員と続きます。楽しみにしてください。

ロータリー財団委員会 野村 圭伊 委員長

米山記念奨学会への特別寄付は、目標の20万円を上回り23万円集まりました。ご協力ありがとうございました。松田会員が、第1回米山功労者となりました。来週、表彰させていただきます。

ニコニコ

本日のニコニコ 4名 10,000円

累計 756,500円 (予算達成 75.7%)

報告 山下 雅弘 会員増強・親睦委員長



ニコニコ、約76%まで予算達成しました。引き続きご協力よろしくお願いします。

藤林良昭 君 森岡会

長の満州からの引き揚げ、楽しみです。



和田達也 君 最近やっとな幹事の職務に慣れてきました。残り少ない任期、頑張りま〜す。

横倉利夫 君 たまにはニコニコします。昨日、弊社のゴルフコンペで準優勝と馬券を総取りしました。サンキューです。

成田恭隆 君 気がつけば6月。1年が短く感じます。



『ロータリーの友』 横組・縦組を考える 森岡 弘通 職業奉仕委員長

投稿のすすめ 4月の中旬、散歩中に突然一句うかび、「なかなかの出来映え」と自ら判断して、早速「ロータリーの友」の俳壇(縦組12・13頁)に投稿しました。しかし5月号にも6月号にも掲載されずいささかがっかりしていたところ、今月号の『『ロータリーの友』を語る』(横組18~22頁)で、ロータリーの友地区代表委員の方が「投稿規定を守ればほとんどの原稿は掲載されるが、ただし6ヶ月ほど時間がかかる場合もある」と語っておられるのを読み、少し元気と楽しみを取り戻しました。皆さんも購読するだけでなく投稿されることをお勧めいたします。「ロータリーの友」が違ってみえてきます。

言いたい、聞きたい 投稿といえば、これまで私は「言いたい、聞きたい」の欄に真っ先に目を通してきましたが、この欄は今月で終了し、次号からは縦組となる「同論・異論」に会員の意見発表欄はまとめられるようです。ただ「同論・異論」では、決められたテーマに沿った内容が求められるので、自由闊達な「言いたい、聞きたい」とは若干趣きが異なり、その終了はやはり残念です。

縦組と横組を考える もう一つ気になることが前記の『『ロータリーの友』を語る』のなかで述べられていました、縦組と横組の違いについてです。「ロータリーの友」には、「縦組のペー

ジは、いわば趣味の世界だから興味があったら読んでいただくということで良いが、横組はロータリーそのものだから、会員歴の長い短いを問わず必ず読んで欲しい」といった区別があるらしいのです。私の感じでは、横組のページはRIの指定記事にみられるような国際的な組織としての、あるいは全国的な組織としてのロータリークラブに関する重要な情報が記される一方、縦組には私たちのクラブと地続きの、私たちと同じ身の丈の会員たちがそれぞれの地域で行う、決して大がかりで広範囲に及ぶものではないが、ロータリー精神に満ちあふれた奉仕活動や集会の様子が報告されています。私の大好きな「ロータリー・アット・ワーク」は、そうした縦組ページの典型ですが、そこに記されているような地道なロータリーの活動を見聞きすることこそが、ロータリーの理念・ルール・行事・組織等への関心や敬意や共感を呼び起こす源であると考えます。とすればタテ・ヨコの形式上の違いを内容に関する軽重の違いにまで広げることが、むしろ無用の誤解を招いてしまうように思えます。

終わりに 当委員会による「ロータリーの友」注目記事紹介は、今回で最後となります。例会や広報の貴重な時間・紙面を割いていただき感謝しております。ありがとうございました。

満州国 昭和初期の1932(昭和7)年、中国の東北部に清朝最後の皇帝溥儀を執政とする満州国という国家が、日本軍によって建国されましたが、1945年8月8日のソ連軍の侵入後10日ほどであっけなくその幕を閉じました。

満州で生活していた多くの日本人はソビエト軍の暴行・略奪・シベリア抑留等によって悲惨な生活を余儀なくされていました。

ソビエト軍が満州からの完全撤退を表明した1946年春から、GHQのアドバイスで重い腰をあげた日本政府は、中国の国民政府と交渉を行い、日本人の日本国(内地)への引き揚げが開始されました。この引き揚げと敗戦直後の日本について私の体験をもとに少しお話してみたいと思います。

引揚者 引揚者とは、一般には、太平洋戦争終結前に、日本以外の外地に生活の本拠地をもっていた者で、終戦に伴って発生した事態にもとづく外国官憲の命令、生活手段の喪失等やむを得ない理由によって終戦後の日本に引き揚げてきた者をいう、とされています。

敗戦で家も土地も財産もすべて失った、私たち家族(両親・妹・弟・お手伝いさん・中学生くらいの少年)七人は、無蓋車や貨物船を乗り継ぎ、1ヶ月かけて1946年の7月中旬無事、広島(大竹)に引き揚げてまいりました(引き揚げは、1957年頃までかかり、この1946年(1945年9月2日以降を含む)には、5,096,323名が引き揚げてきました)。

日本にいた人の視点からみた、この時の状況を、ある日本史の教科書は、次のように記しています。「戦争によって国民の生活や生産活動は徹底的に破壊され、多くの都市は空襲で焼け野原となり、鉱工業の生産水準は戦前の3分の1にまで落ち込んだ。その上、将兵(中国110万人、満州80万人、南方160万人で合計350万人)の復員や引き揚げで人口はふくれあがり失業者は急増した。」

草場辰己さんの自叙 私は1946年9月、鎌倉町立小坂小学校4年に編入学が許されました。(3年の後期・4年の前期のまる1年間、私は正規の学校教育は受けておりません)。同じ頃(9月20日)、極東軍事法廷にソビエト側証人3人として東京に護送されていた、満州の元大陸鉄道司令官 草場辰己(58歳)さんは、東京丸の内の三菱ビルの一室で青酸カリによる自殺をとげました。その手帳には「私の罪は、私が大陸鉄道司令官であったにもかかわらず、満州の避難民に輸送(列車)を確保できなかったことです。私は

死ぬしかありません」と書き残されていたそうです。同じ証人として連れてこられた者のひとりが、あの有名な陸軍参謀 瀬島龍三さんで、彼は「在満居留民の早期日本帰還を主張した」といっていますが、そんな要請は日本軍の口から出ていないことが、ソビエト側の資料で今では明らかになっています。

戦災孤児と「鐘の鳴る丘」 さて、私は友人もたくさん出来、いじめやこれといった抵抗もなく日本での新しい生活環境、学校生活にとけ込むことができましたが、東京や横浜に出てみると、アメリカ軍の大空襲で親をなくし生きるすべを失った、私と同世代の浮浪児(戦災孤児)が社会に受け入れられぬまま、夜は土管や橋の下で寝、昼はカップライ、スリ、こそ泥を働き、鋭い目つきときたない手足で小さな犯罪者予備軍を構成していました。

この戦争の犠牲者である、浮浪児たちの生きる場所(養護施設)をつくらうと懸命な努力を重ねる青年と子どもたちの物語、有名な菊田一夫原作の「鐘の鳴る丘」というラジオドラマが、1947年から3年間放送されましたが、私はこの番組が大好きで、ウィークデイの夕方、毎日ラジオにかじりついて聞いていました。若干大げさな言い方をすれば、孤児たちが父母を失った不幸や古い日本の暴力・偏見と闘いながら、自らの生きる道をきり開いていくこの物語に、日本の未来への明るい希望を見だしていたのかもしれない。とくにテーマソング「とんがり帽子」は、そうした日本の希望にみちた明日を仲良しの仲間と手をつなぎながら迎えることができるという確信を歌いあげていました。この歌が現在カラオケに入っていない(「鐘の鳴る丘」世代とアメリカ、勝又浩、白水社)と聞くと不思議に思いますが、今、冷静に考えますと、この番組は大人は聞いていなかったのも、共感の輪は私が考えるほど広くはなかったのでしょう。

新しい日本 いや大人はみんなラジオドラマどころではない大変な生活をおくっていました。自分だけが何故生き残ったのだ、という後ろめたさ、自分の無知に対する怒りと反省…等にさいなまれていました。そして何よりもまず生活に必要な食料・物資が決定的に欠けていました。極度の物不足それに加えて猛烈なインフレ。貧乏神のそらい踏みでした。

しかし貧乏神との闘いと同時に、当時の大人たちは、これまでの日本のくこのあり方を根本的に反省しながら新しい日本をどのようにしてつくり直し何をモデルにして建設・

発展させていけばいいのかについても一生懸命に考えておりました。そうした多くの人々が考えた結果は、幕末期の開国と共に積極的に取り入れた、西欧の近代社会のあり方、近代化のエネルギーをこれまでのように「富国強兵」の方向にだけ活用するのではなく、人間関係のあり方、社会制度、社会道徳、学問、文化、政治、経済等々様々な分野での近代化を徹底してはかる、といった決意であったと思います。モデルとなったのは、ソビエト・ファンもたくさんいましたが、自由主義・民主主義の国アメリカでした。

アメリカ 現在、当時の日本人が、自らの歴史や伝統を忘れ、道徳や生活慣習のレベルでもアメリカを賛美し日本人としての魂を失った、なさない、と様々に批判されています。

しかし敗戦をむかえるまでの日本人は、神国日本とか大和魂とか日本の特殊性ばかりをひたひたりに主張し優越感にひたっており、そのために丸裸、焼け野原にされてしまったのですから、今度は世界に目を向け、特殊性ではなく共通性、普遍性を積極的に重視しようとしたのも無理からぬことであった、と考えます。さらに、当時日本にやってきたアメリカ軍の指導層のなかには、ローズベルトのニューディール政策を推進した良質の知識人が参加しており、きわめて理想主義的で進歩的な思想や文化を占領政策のなかに織り込んでいたことも、あるいは普通のアメリカ兵の振る舞いが勝った側の軍人とは思えないほど対等で友好的であったことなども、そうしたアメリカ文化への傾倒に拍車をかけたといえるでしょう。

この辺のことは、以前少しお話したことがあります。いずれにせよ、アメリカをモデルとして、日本が新しい国づくりに励んだことは、当然の成行であり、そしてそのことは、決して日本にとって不幸なことではありませんでした。

おわりに

時間がきてしまったので、ではその「アメリカ」とは一体いかなるものなのか、についてお話することはできなくなりました。また、いつの日かに私の考えをきいていただける機会があれば、と願っています。



東京日野ロータリークラブ会報

会 長 藤林 良昭
幹 事 和田 達也
会報委員会 山口 徹雄(委員長)
小峯 敏夫 西山 尚之

事務局 〒191-0042 東京都日野市程久保3-37-3 日野ロータリークラブ会館
TEL 042-594-3711 FAX 042-593-0510
例 会 毎週水曜日(12:30より) 高幡不動尊客殿
U R L http://www.hino-rotary.org メール info@hino-rotary.org